

第 75 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地環境の順応的管理—

7月の研修会は、湿生生態園の植生管理作業と、絶滅危惧種のホテルドジョウのビオトープ再生として、谷戸の水路の再生を行いました。



7月前半に晴天が続いたからでしょうか？
1ヶ月ぶりに見た谷戸山公園の田んぼの
稲も、ぐんぐん伸びていました。



まずは、講師から研修内容の説明があり、
研修会はスタートです。



午前は、湿生生態園の管理作業です。
こちらの湿地では、毎年研修会で継続的にヨシ刈りを行い、ヨシが増えすぎるのを抑えてきました。



その成果か、作業を続けてきた流れの脇には、
写真のミソハギや、アカバナ、ミゾソバ、など、
ヨシ以外の水辺の植物が見られるようになってきました。



その反面、外来種のキショウブが増えてきたので、
今回はヨシ刈りとキショウブの根株の除去作業をしました。
左はキショウブの種、右はキショウブの根株です。



根株から出る細根が絡まり、島のようになっていました。
この根を徐々に切り剥しながら、除去していきます。



左側と手前の部分のキショウブを除去し、だいぶ小さな島になりました。
ただ、毎年キショウブの花を楽しみに訪れる来園者も少なからずいるので、
外来種だからと言って全て排除するのではなく、増えすぎないように根株の除去作業を続け、
徐々に抑えていきます。



作業後、清掃をして昼食です。



昼食後、恒例の環境に関する記事の
発表があり、その後、照度調査から
午後の作業開始です。



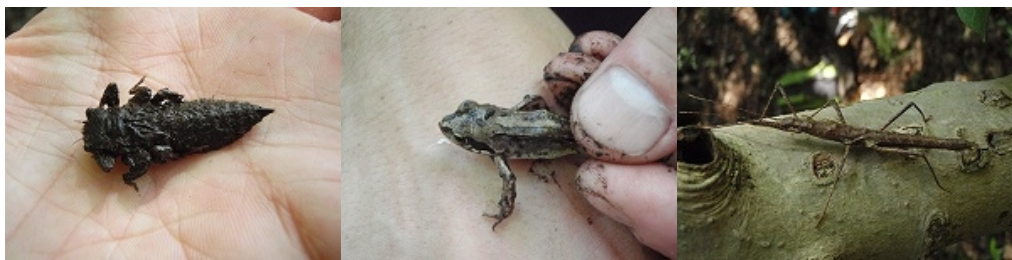
影になる障害物のない開けた場所と、常緑樹間伐区域の樹林内で、照度計を使って照度を測りました。
調査で出た値は、皆伐区域と間伐区域の林床植生の再生状況を比較する際、参考になります。



その後谷戸に移動し、ホトケドジョウのビオトープの再生作業です。
流れを覆い、光を遮る常緑樹を伐採し、水辺の植物が生育できるようにします。



伐ったあとは、まとめやすいようある程度枝葉を切り分けていきます。



谷戸では、こんな生きものが暮らしていました。左から、オニヤンマ(ヤゴ)、ヤマアカガエル、トゲナナフシです。他にも、たくさんの生きものが見られました。



少し樹間が開き、光が射すようになりました。



最後にまとめと質疑応答があり、研修会は終了です。

今回は、少し作業の比重の多い研修でしたが、作業中でもそれぞれ図鑑を開いて、動植物の観察も行っています。みなさんもぜひ、現場研修会に参加して、里山の管理作業から垣間見える、様々な生きもののつながりを感じてみてください。ご参加お待ちしております。